

株式会社アムスク
2010年3月期決算説明会

於：新光総合研究所

2010年5月31日

Contents

1. 2010年3月期決算の概要
2. 2011年3月期の業績見通し
3. 中期経営計画概要

1. 2010年3月期決算の概要
2. 2011年3月期の業績見通し
3. 中期経営計画概要

10/3期 決算(連結)P/L概要

在庫の資質改善による粗利益の増加、経営合理化効果により赤字幅は縮小

単位:百万円

	09/3期 実績	10/3期 実績	10/3期 計画	計画比	前期比
売上高	21,668	15,631	16,000	△369	△6,037
売上総利益	2,022	1,780	1,640	140	△242
売上総利益率	9.3%	11.4%	10.3%	1.1%	2.1%
販売管理費	2,318	1,830	1,790	40	△488
営業利益	△296	△50	△150	100	246
経常利益	△417	△93	△240	147	324
当期利益	△795	△179	△280	101	616

※計画値は2009年5月15日付にて開示致しました業績の予想数値です

- ・売上高は前期比で約60億円(28%)の減少となりました。
- ・利益面では売上高の減少に伴う売上総利益の縮小はあったものの、在庫健全化に伴う評価損益の改善、経営合理化策の着実な実行による販売管理費の大幅な削減等(21%)により、期初の計画通り下半期の黒字を達成するとともに、通期赤字幅を縮小することができました。

10/3期 四半期別業績推移

合理化効果から下半期の収益は大幅改善

単位:百万円

	第1Q 4月～6月	第2Q 7月～10月	第3Q 10月～12月	第4Q 1月～3月	通期
売上高	3,515	4,057	3,947	4,111	15,631
売上総利益	319	463	465	533	1,780
販売管理費	471	468	434	457	1,830
営業利益	△152	△4	30	76	△50
経常利益	△165	△15	24	63	△93
特別損失	-	41	-	-	41
当期利益	△172	△70	12	52	△179

- ・下半期から合理化効果が浸透し、固定費が減少しました。
- ・在庫の評価損失の減少等により粗利益率が改善しました。
- ・10月から月次ベースで、黒字を確保できる体質になりました。

10/3期 決算(連結)B/S概要

売上債権増加するも、棚卸資産圧縮により自己資本比率50%超維持(52.5%)

単位:百万円

	09/3期	10/3期	前期比		09/3期	10/3期	前期比
流動資産	6,993	7,144	151	流動負債	3,376	3,621	245
現金及び預金	630	751	121	買掛金	693	1,169	476
受取手形及び売掛金	3,126	3,634	508	借入金	2,228	2,269	41
たな卸資産	2,929	2,590	△339	賞与引当金	46	60	14
その他	310	170	△140	その他	407	120	△287
貸倒引当金	△2	△2	0	固定負債	37	32	△5
繰延税金資産	0	0	0	負ののれん	31	24	△7
固定資産	654	545	△109	その他	6	7	1
有形固定資産	32	24	△8	負債合計	3,414	3,653	239
無形固定資産	195	122	△73	株主資本	4,270	4,086	△184
投資不動産	196	194	△2	評価・換算差額等	△37	△49	△12
投資その他の資産	229	204	△25	純資産合計	4,233	4,036	△197
資産合計	7,647	7,690	43	負債純資産合計	7,647	7,690	43

【流動資産】

- ・売上債権は下半期からの売上高の増加に伴い大幅に増加しました。
- ・たな卸資産は前期比減少しました。期末たな卸資産は2010年度の販売拡大に向け、3ヶ月先の売上見込み額に対し、1.8ヶ月となっています。

【流動負債】

- ・買掛金は受注回復に伴い増加しました。
- ・借入金は主に売上債権の増加をたな卸資産の減少と買掛金の増加により吸収しほぼ前年並みとなりました。

【純資産】

- ・当期純損失により、株主資本が減少しました。

10/3期 決算(連結)キャッシュフロー概要

営業キャッシュフローは連続黒字化を達成

単位:百万円

	09/3期	10/3期		09/3期	10/3期
I 営業活動によるキャッシュフロー			III 財務活動によるキャッシュフロー		
税金等調整前当期純利益	△554	△134	借入金の純増減額(純減少額:△)	△2,633	83
減価償却費	106	102	配当金の支払額	△76	△1
売上債権の増減額(増加:△)	2,436	△557	その他	△22	△5
たな卸資産の増減額(増加:△)	1,781	323	小計	△2,731	78
仕入債務の増減額(減少:△)	△1,169	507	IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△14
その他	131	△203	V 現金及び現金同等物の増減額	△168	121
小計	2,731	38	VI 現金及び現金同等物の期首残高	798	630
II 投資活動によるキャッシュフロー			VII 現金及び現金同等物の期末残高	630	751
有形固定資産の取得による支出	△8	△9			
無形固定資産の取得による支出	△22	△11			
投資有価証券の売却による収入	14	-			
子会社株式取得による支出	△112	-			
投資不動産の取得による支出	△6	-			
その他	△25	39			
小計	△159	19			

- ・営業キャッシュフローはたな卸資産の減少、仕入債務の増加により黒字化を維持しました。
- ・投資活動によるキャッシュフローの「その他」は主にオフィススペースの見直しによる敷金の返金が含まれています。
- ・販売の回復に伴う売上債権の増加資金は、たな卸資産の圧縮と仕入債務の増加で、ほぼカバーできたため、借入金残高は微増にとどまりました。

10/3期 決算 分野別売上概要

デジタル家電、ゲーム機器を中心に民生が躍進

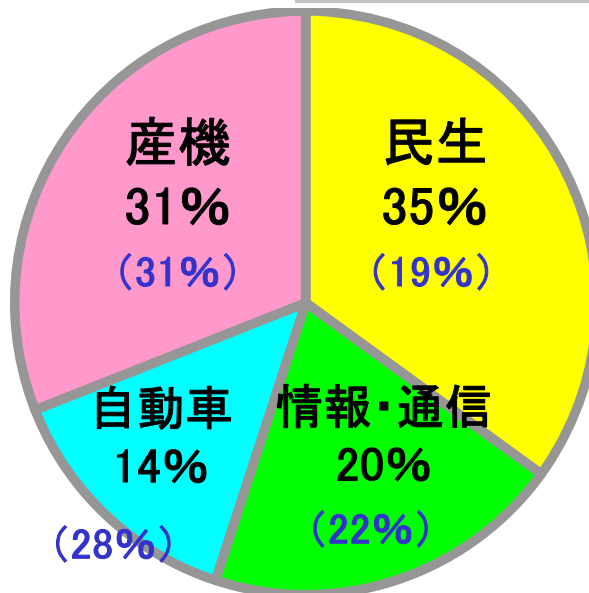
売上高合計156億円 %は構成比率、(%)は前年同期

【産業機器】

医療機器、計測機器
半導体テスター、製造装置
その他産業機器

【自動車】

エンジンコントロールユニット
エアバック、ABS、ボディ
カーオーディオ・カーナビ



【民生】

液晶TV
DVDプレーヤー、レコーダー
デジタル・スチル・カメラ
ゲームコントローラー等

【情報・通信】

デジタルTVチューナー
パーソナル・コンピュータ
携帯電話等

【民生】 家庭用ゲーム機器向けカスタムIC、液晶TVが今期急進しました。デジタルカメラ等デジタル家電分野は総じて堅調に推移しました。

【情・通】 TVチューナーが前年同期を下回りましたが、今期の計画通り推移しました。

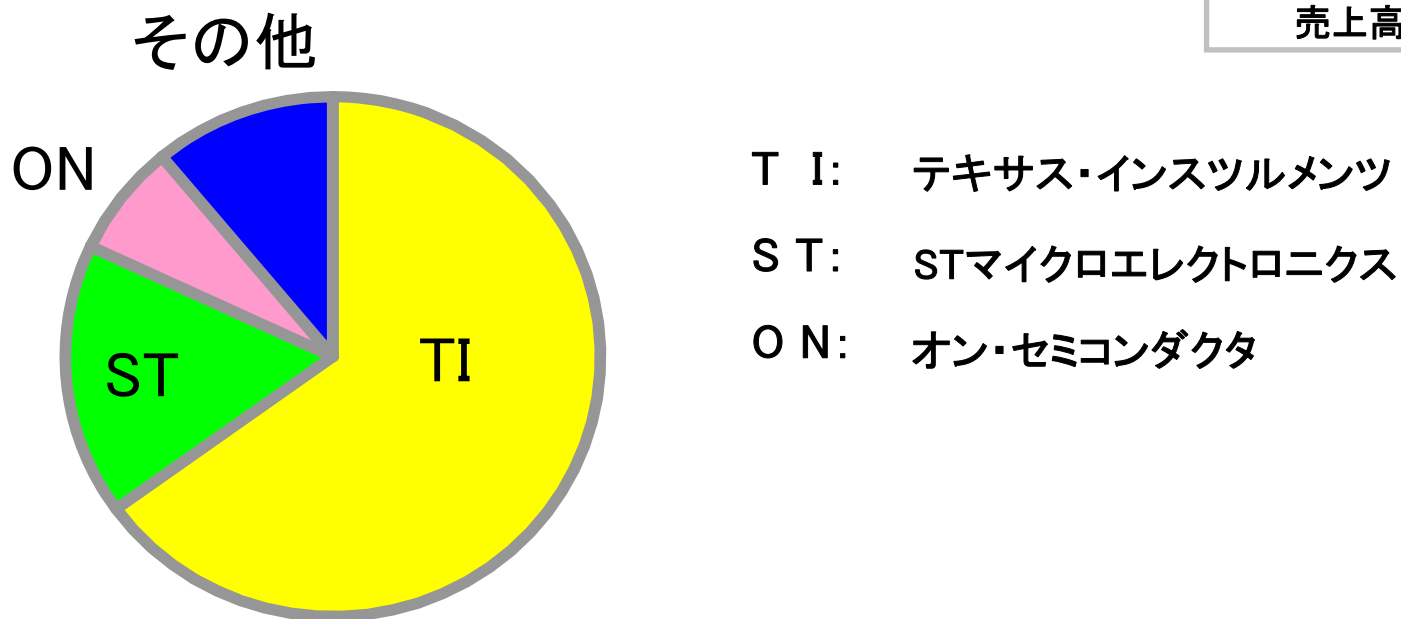
【自動車】 自動車分野は、フリースケール製品の取り扱いがなくなることから大幅に減少しましたが、ONセミ製品を中心に下期から販売が増加し始めました。

【産機】 半導体設備機器や計測機器は長らく需要の停滞が続いていましたが、下期から復調ははじめました。医療機器は計画通り堅調に推移しました。

10/3期 決算 メーカー別売上概要

お客様のアプリケーション開発を先取り出来る半導体メーカーで構成する

売上高合計156億円



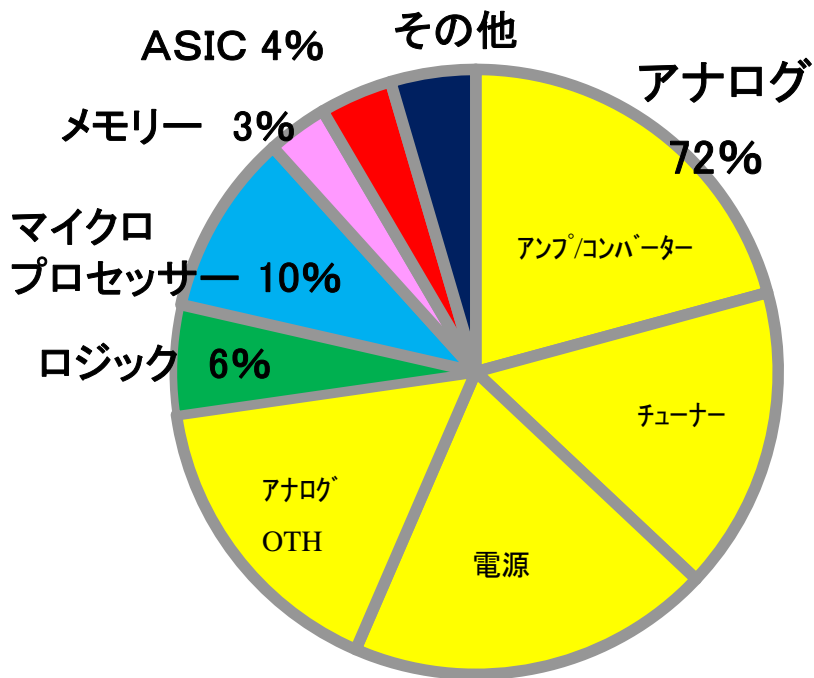
T I: テキサス・インスツルメンツ
 S T: STマイクロエレクトロニクス
 O N: オン・セミコンダクタ

【 T I 】	家庭用ゲーム機器向けカスタムIC、液晶TV等民生機器が堅調に推移しました。
【 S T 】	加速度センサー、3軸センサー等、家庭用ゲーム機器向けICが下期より立ち上がり始めました。
【 O N 】	車載機器向けが回復しはじめました。
【その他】	GPSモジュール品、iPodアクセサリ商品等が計画通りとなりました。

10/3期 決算 品目別売上構成

アナログ & マイコン製品の提案力と技術サポート力が当社の強み

売上高合計156億円 %は構成比率



分類	特徴	小分類	主な用途
アナログ	デジタルに対し、連続した信号を扱うIC	オペアンプ コンバーター チューナー 電源 インターフェース レギュレータ ディスクリート	電源装置 通信機器 計測機器 AV機器 制御機器
ロジック	汎用理論素子、デジタル回路を構成する標準IC		計測機器 コンピュータ OA機器
マイクロプロセッサ	コンピュータの頭脳部分で、機器の中に組み込んだ形で使用されるIC	8bit 16bit 32bit	通信機器 アミューズメント機器 自動車機器
メモリー	記録素子IC	DRAM, FLASH EEPROM	コンピュータ
ASIC	特定用途向けカスタムIC		

【アナログ】 アナログ・デジタル変換回路や、電源等、電子機器に欠くことのできない製品群を有し、民生から産業機器まで裾野の広い顧客をサポートできるのが、当社の特徴です。

【マイコン】 お客様の設計段階から、当社の技術力をベースにサポートできるのが強みです。サードパーティー（開発委託会社）とのコンビネーションで、細かなサポートが可能です。

1. 2010年3月期決算の概要
2. 2011年3月期の業績見通し
3. 中期経営計画概要

11/3期の業績見通し

売上高 2009年度比30%増 2期振りの黒字を計画

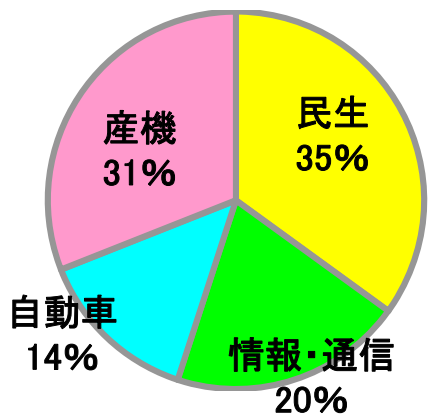
単位:百万円

	2010/3期	2011/3期(計画)		
		上期	下期	通期
売上高	15,631	10,000	10,500	20,500
売上総利益	1,780	1,060	1,125	2,185
売上総利益率	11.4%	10.6%	10.7%	10.7%
販売管理費	1,830	974	983	1,957
営業利益	△50	84	144	228
経常利益	△93	43	107	150
当期利益	△179	30	70	100

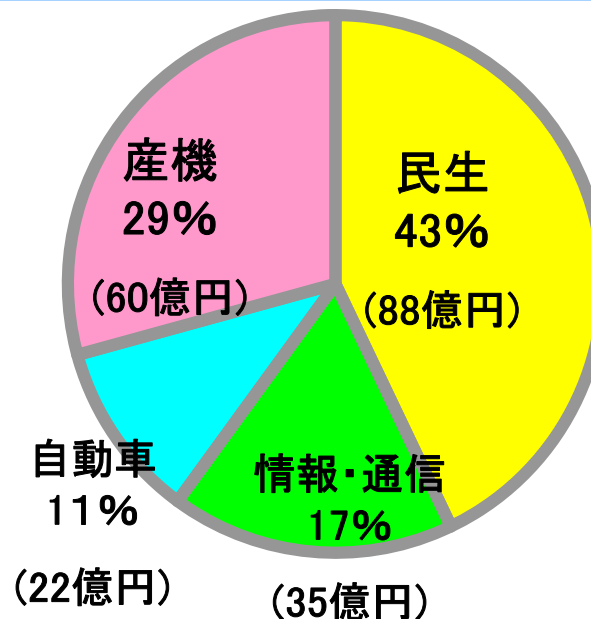
- ・売上高は、民生分野を中心とした売上拡大を計画しており、31%UPの計画です。(08年度の95%レベル)
- ・売上総利益は、23%UP、前期比4億円の増加を見込んでおります。
- ・販売管理費は、販売の増加による経費の増加と、賞与の支給水準UPによる人件費の増加を見込んでいます。

11/3期 分野別売上見込み

引き続き民生が牽引、産機復調に期待



09年度売上高合計 (156億円)



10年度売上高合計 (205億円・計画)

【民生】

家庭用ゲーム機器向け、カスタムICの拡大が見込まれます。

【情・通】

アジア向け液晶TVが引き続き堅調に推移する見込みです。

【自動車】

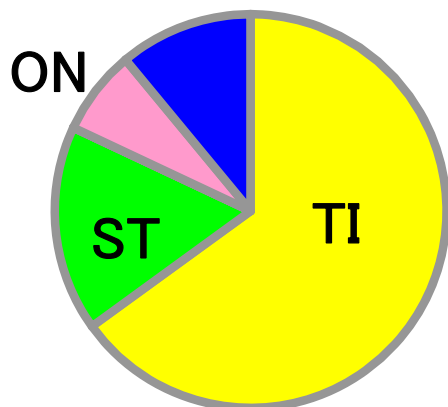
自動車分野は、フリースケール製品の取り扱いがなくなったことから大幅に減少しましたが、既存の商材で2012年モデルから販売の増加を見込んでおります。

【産機】

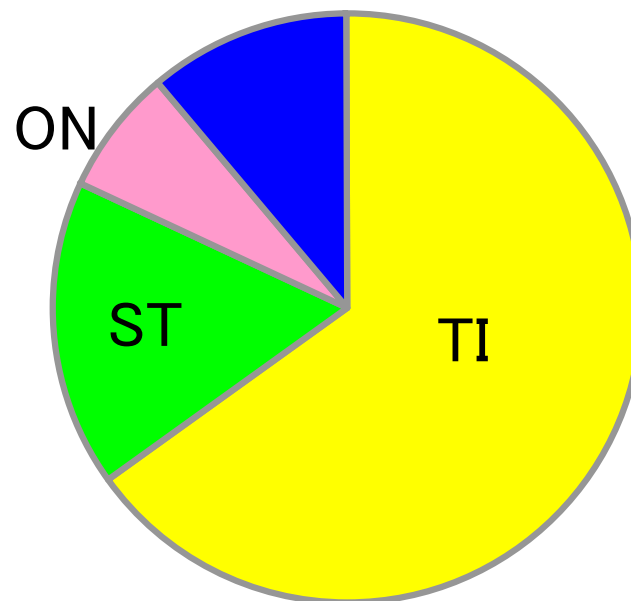
半導体製造装置、計測機器、メディカル等、インダストリ関係が増加する見込みです。

11/3月期 メーカー別構成比見込み

各メーカーとも 20%以上の売上増加を計画



09年度売上高合計 (156億円)



10年度売上高合計 (205億円・計画)

【 T I 】	家庭用ゲーム機器向けカスタムIC、液晶TV等民生機器を中心に20%UPを計画
【 S T 】	家庭用ゲーム機器向けセンサー、TVチューナー等を中心に売上高70%UPを計画
【 O N 】	車載機器向けの回復により、30%超UPを計画
【その他】	GPSモジュール品等を中心に、30%超UPを計画

株主還元

配当予想 今期は中間配当を予定

	10/3期	11/3期
1株当たり年間配当金	1円	5円
中間配当	-	2円
期末配当	1円	3円

※5月12日決算発表

1. 2010年3月期決算の概要
2. 2011年3月期の業績見通し
3. 中期経営計画概要

(1)経営方針・ビジョン

半導体、電子部品、ソフトウェア開発など、最新かつ多岐に渡る商材とソリューションを提供し、より質の高い提案力、技術力、サプライチェーン・パフォーマンスを追及する事により、お客様の世界規模での開発、生産活動に貢献する。

お客様、株主様からの信頼をより高めることは元より、社員一人ひとりがより人間性豊かな人と成るべく切磋琢磨し、新しい時代の一翼を担える人材を培い輩出する組織となる。

(2)中期経営計画 スローガン

『Survive in the Change, Create with the Quality』

世界規模での構造変革、サプライチェーンの変化を先んじて捉え、ソリューション、ディストリビューションの最適化を図る事により、競争力をより向上させる。

販売規模よりもむしろ機能、付加価値、ソリューションの品質を向上させる事により差別化を図る。

(3)中期経営計画 事業戦略

従来の枠組み、概念にとらわれない柔軟な営業活動による既存事業の深耕と新規事業の開拓、確立し、安定的な利益造出基盤を確立します。

実現する為に以下の項目を遂行いたします。

- ①顧客密着型商社の実現
- ②リージョン毎機能・役割の明確、先鋭化
- ③新時代に向けた商材提供、アプリケーション
開拓・開発支援

①顧客密着型商社の実現

『One Stop Shopping』

多様な商材を多様な形態で提供する事により、顧客の開発、調達スピードを加速する。その為に商材の拡充を行う。

(MCU、Analog、LED、通信系IC等)

顧客層の拡充

ワールドワイドレベルでの産業構造、サプライチェーンの変化を捉え、日系セットメーカー、モジュールメーカー顧客に加え、EMS顧客とのタイアップを強化して行く。

②リージョン別機能の先鋭化

日本 営業・FAE(※)を重点配置、デザイン・イン活動の活性化

販売網の強化⇒国内拠点新規開設

技術の質・量強化⇒アナログ、電源、MCU

FAEリソース強化

アジア 顧客生産サポート体制の拡充

部材調達、在庫機能、品質サポートの強化

⇒アジア拠点新規開設

現地デザイン・インの実現

⇒既存3現法のメーカー、FAEリソース強化

(※) FAE: Field Application Engineerの事で

主に半導体業界において、技術力を備えた技術営業職を指します。

③新時代に向けた商材提供、アプリケーション開拓・開発支援

i. エコロジー	スマートグリッド、EV（インバーター、バッテリー）、LED照明、鉄道 BIZ拡大の為の最適デバイスの提供
ii. 民生	TV、リモコン、Gaming、PC、タッチセンサー等にフォーカス 国内 R&Dへの提案力強化を質・量ともに実現する。 （拠点開設、顧客評価フィードバック） 海外 アジアを中心とした量産サポート力の向上 （調達・在庫機能、品質サポートの強化）
iii. 産業機器	メディカル、セキュリティー、テスター、製造装置にフォーカス
iv. 情報通信	TVチューナー用商材、ソリューションの強化
v. 車載	EV、HEV、カーインフォテイメントを中心にソリューションの強化 専任組織の確立とソリューション半導体の追加

③新時代に向けた商材提供、アプリケーション開拓・開発支援

i .エコロジー

■ スマートグリッド

スマート電カメーター（検針からリモートリーディングへ）

太陽光発電用パワーコンディショナー

■ EV HEV

エンジン／トランスミッションからバッテリー／モーター／インバーターへ

EV/HEVの為のインフラ整備（急速充電器）

③新時代に向けた商材提供、アプリケーション開拓・開発支援

i .エコロジー

■ LED照明

街路灯、トンネル内照明、鉄道車両用等 超寿命メンテナンスフリー化

■ 鉄 道

車輛制御、鉄道信号保安制御装置(ATS、ATC、CTC)

③新時代に向けた商材提供、アプリケーション開拓・開発支援

ii.民生

- 液晶・3D TV
- RFリモコン (TVの双方向性機能拡充に向け普及)
- 家庭用娯楽機器 (ゲームコントローラー)
- インバーターエアコン

iii.産業機器

- メディカル CT, MR, AED, 体脂肪計etc.
- セキュリティー 人感センサー
- テスター・製造装置

③新時代に向けた商材提供、アプリケーション開拓・開発支援

iv.情報通信

- テレビチューナー
- 携帯基地局

v.車載

- EV HEV 電力制御系
- ナビゲーション・ドライブアシスト（運転支援情報）

中期経営計画 連結業績目標

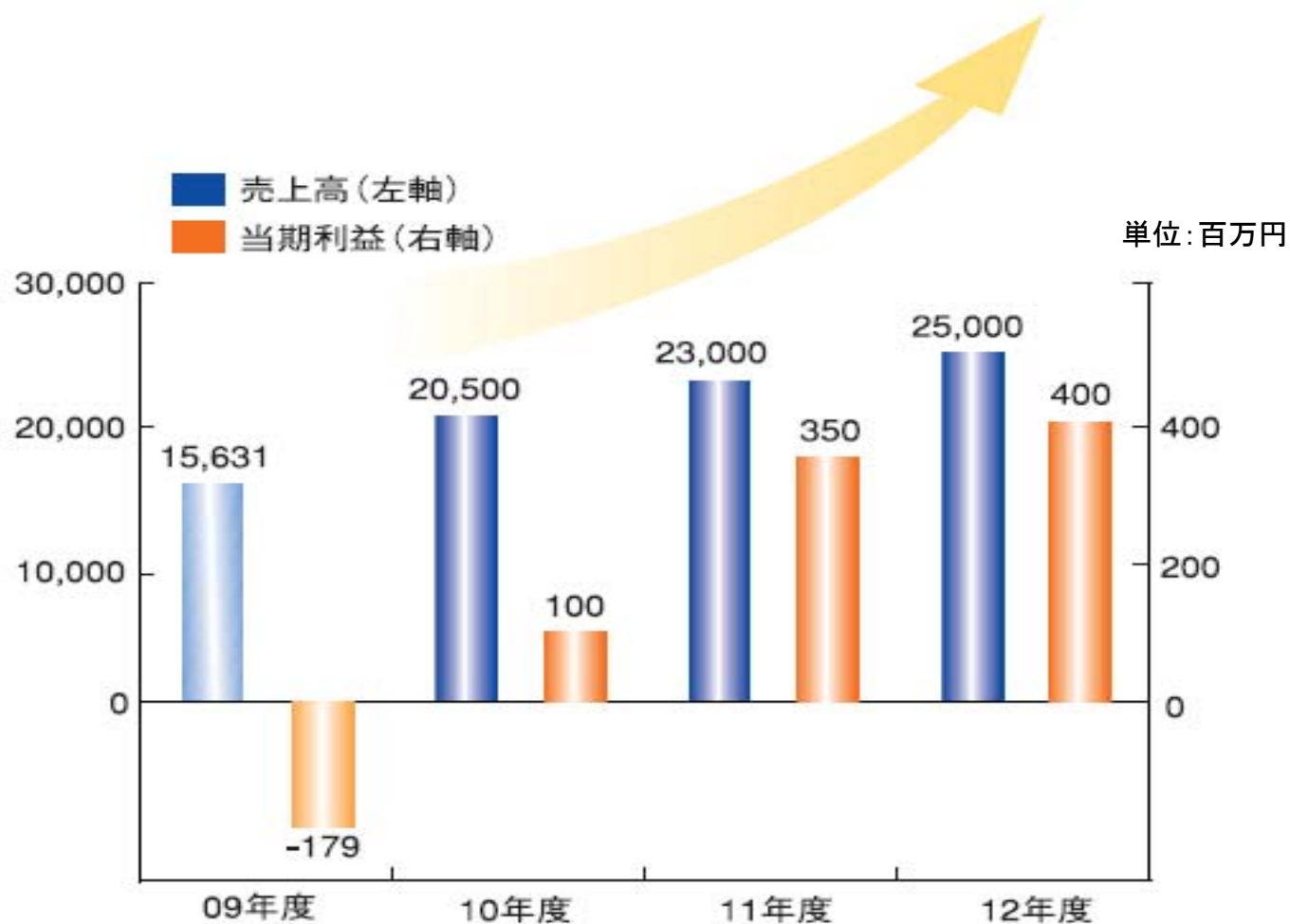
収益性を重視し、グループの持続的な発展と企業価値の向上に努めます。

単位:百万円

	10年度	11年度	12年度
売上高	20,500	23,000	25,000
営業利益	230	550	650
経常利益	150	460	550
経常利益率	0.7%	2.0%	2.2%
当期利益	100	350	400
EPS	20円	72円	82円

EPS:1株当り純利益(単位:円)

経営目標値





本日はありがとうございました。

今後ともご支援宜しくお願いいたします。

本資料には、業績見通し及び事業計画等も記載しております。

それらにつきましては、作成時点における経済環境や事業方針などの一定の前提に基づいて作成しております。

従って、実際の業績は、様々な要素によりこれらの業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おきください。

資料に関する問い合わせ先
株式会社アムスク
IR担当: 森/奥原
TEL: 0422-54-6186
mail: ir@amsc.co.jp